

キバネセセリ

6月頃にハリギリの葉の縁を巻くイモムシ（幼虫）。最大長約25mm.

まれながらハリギリで多発する。



1. 幼虫，体長23mm. 2000/6/16. 美唄市，ハリギリ.

【学名】 *Bibasis aquilina chrysaeglia*

【分類】 チョウ目 (Lepidoptera) ， セセリチョウ科 (Hesperidae)

【分布】 北海道，本州，四国，九州.

【生態】

年1世代。落葉中で幼虫越冬。葉が開く頃，幼虫は幹を登って葉を食べ始める。葉の縁を折り曲げ糸でつづって巣を作る。7月中下旬に数枚の葉を糸でつづり合わせ，その中で蛹になる。成虫は7月下旬～8月に出現する。雌成虫は若い葉に1個ずつ卵を産む。孵化した幼虫は葉を食べて成長し，2齢のとき地上に降りて越冬に入る。

发育ステージ	～3月	4	5	6	7	8	9	10	11～
幼虫（越冬，落葉中）	+++	+++	+++					+++	+++
幼虫（摂食・成長）			■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■	
蛹					◇ ◇ ◇ ◇	◇ ◇ ◇ ◇			
成虫・卵					○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○			

【被害と防除】

森林や公園などのハリギリでまれに多発する。大きな木は何年も食害が続くと，枝が枯れることがあるといわれている。もっと

も、多発生が何年も続くことはほとんどない。防除は普通必要とされない。

【文献】

1985. 農林水産省林業試験場北海道支場保護部. 北海道樹木病害虫獣図鑑. 223 pp. 北方林業会, 札幌. (生態, 被害, カラー写真).

作成中

北海道立林業試験場・緑化樹センター

キバネセセリ cho/kibanese/
kaisetu.htm

「文章」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001/10/13.

yochu.jpg

「写真1」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 2000.